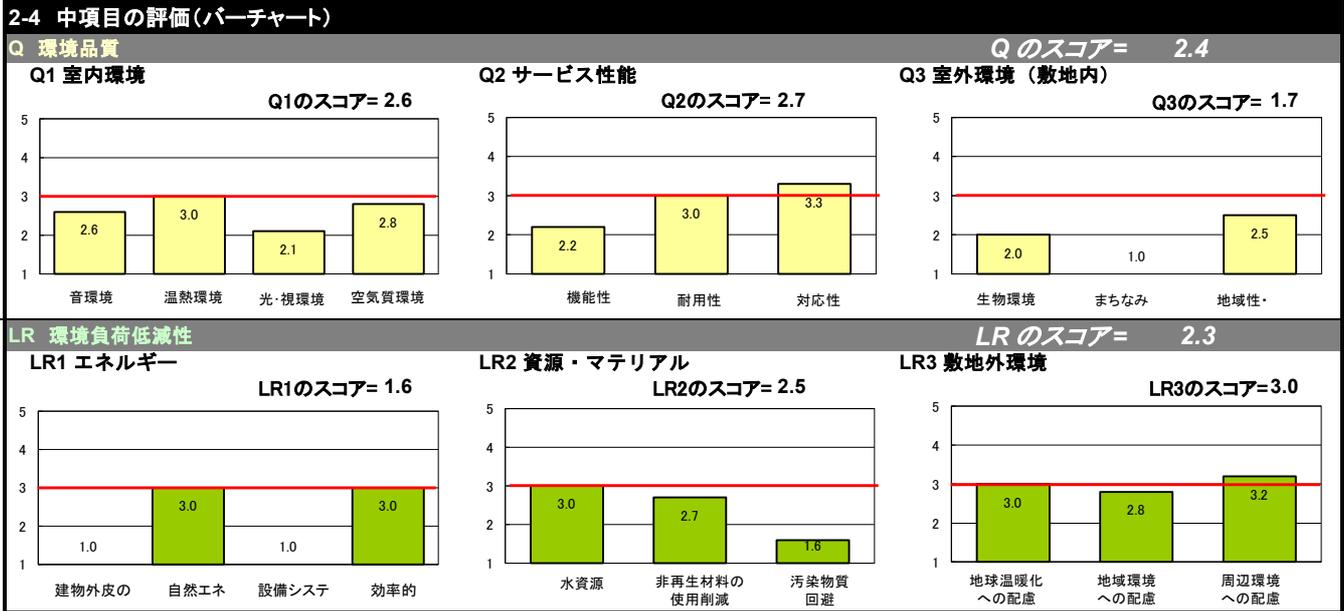
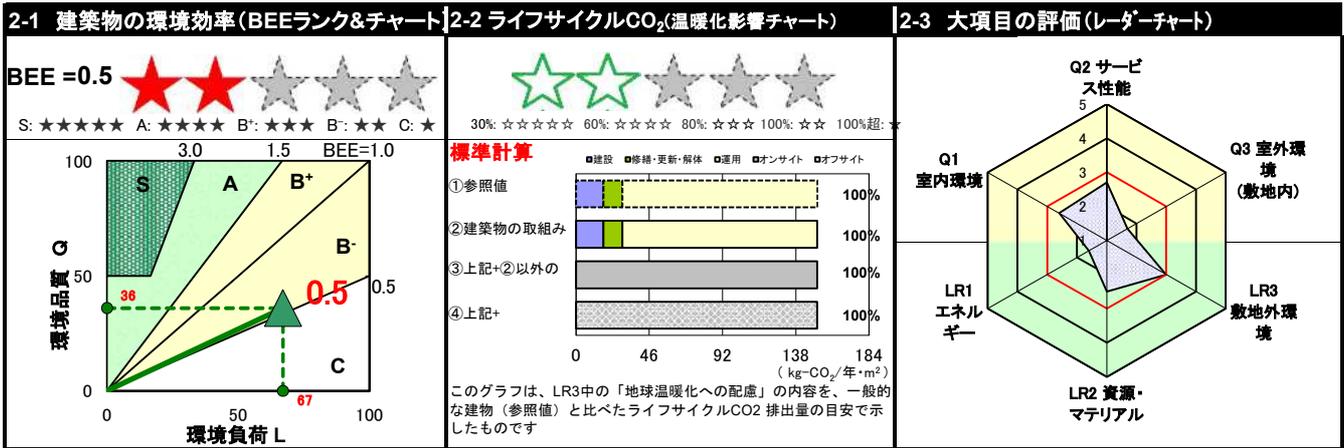


川崎市建築物環境配慮制度受付番号 25007

建築物名称	(仮称)SS高津区溝口計画
建築主	孫 昌根
建築物の所在地	川崎市高津区溝口1丁目441番2
設計者氏名、建築士事務所名	武田 雄也 大和ハウス工業株式会社中高層 一級建築士事務所
工事種別	新築
床面積の合計	2,681.53㎡
用途	飲食店、診療所
構造	鉄筋コンクリート造
階数	地上6階
工事完了予定年月	令和8年12月
自然エネルギーの利用 (利用を検討した自然エネルギーの種類)	太陽光発電、太陽熱利用
自然エネルギーの利用 (利用を決めた自然エネルギーの種類)	なし

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)SS高津区溝口計画	階数	地上6F
建設地	川崎市高津区溝口1丁目441番2	構造	RC造
用途地域	商業地域、防火地域	平均居住人員	340 人
地域区分	6地域	年間使用時間	4,380 時間/年(想定値)
建物用途	飲食店、病院	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2026年12月 予定	評価の実施日	2025年5月13日
敷地面積	662 m <sup>2</sup>	作成者	武田 雄也
建築面積	491 m <sup>2</sup>	確認日	2025年5月27日
延床面積	2,682 m <sup>2</sup>	確認者	武田 雄也

外観パース等  
図を貼り付けるときは  
シートの保護を解除してください



■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)  
 ■「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと  
 ■評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

重点項目についての環境配慮概要		実績重点項目スコア 合計/ 重点項目最高点のスコア合計	重点項目への 貢献点注) (5点満点)
内訳対応項目	各項目について配慮した内容を記述してください。		
<b>緑の保全・回復(G)</b>		<b>Gの平均点</b>	<b>1.8</b>
Q-3 ■ 室外環境(敷地内)対策			
1 生物環境の保全と創出			
2 まちなみ・景観への配慮		1.3/4.3	1.5
3 3.2 敷地内温熱環境の向上			
LR-3 ■ 敷地外環境対策			
2 2.2 温熱環境悪化の改善		0.3/0.8	2.0
<b>地球温暖化防止対策の推進(W)</b>		<b>Wの平均点</b>	<b>2.2</b>
Q-1 ■ 室内環境対策			
2 2.1 2.1.2 外皮性能			
3 3.1 3.1.3 昼光利用設備		1.5/2.7	2.8
3.2 3.2.1 昼光制御			
Q-3 ■ 室外環境(敷地内)対策			
1 生物環境の保全と創出			
3 3.2 敷地内温熱環境の向上		0.9/2.3	2.0
LR-1 ■ エネルギー対策			
1 建物外皮の熱負荷抑制			
2 自然エネルギーの利用		1.6/5.0	1.6
3 設備システムの高効率化			
4 効率的運用			
LR-2 ■ 資源・マテリアル対策			
1 水資源保護			
2 非再生性資源の使用量削減		2.4/4.7	2.5
3 3.2 フロン・ハロンの回避			
LR-3 ■ 敷地外環境対策			
2 2.2 温熱環境悪化の改善		0.3/0.8	2.0
<b>資源の有効利用による循環型地域社会の形成(R)</b>		<b>Rの平均点</b>	<b>3.0</b>
Q-2 ■ サービス性能対策			
2 2.2 部品・部材の耐用年数	機能維持の補修必要間隔を15年とした。	0.3/0.5	3.2
LR-2 ■ 資源・マテリアル対策			
1 水資源保護			
2 非再生性資源の使用量削減		2.2/4.0	2.8
LR-3 ■ 敷地外環境対策			
2 2.3 地域インフラへの負荷抑制		0.2/0.4	2.8
<b>ヒートアイランド現象の緩和(H)</b>		<b>Hの平均点</b>	<b>1.9</b>
Q-3 ■ 室外環境(敷地内)対策			
1 生物環境の保全と創出			
3 3.2 敷地内温熱環境の向上		0.9/2.3	2.0
LR-1 ■ エネルギー対策			
1 建物外皮の熱負荷抑制			
2 自然エネルギーの利用		1.6/5.0	1.6
3 設備システムの高効率化			
4 効率的運用			
LR-3 ■ 敷地外環境対策			
2 2.2 温熱環境悪化の改善		0.3/0.8	2.0

注)重点項目に該当する評価項目の得点(重み係数付)を集計し、当該項目の最高点の合計に対する貢献度を示した点数。

重点項目への貢献点の平均点 **2.2**

ライフサイクルCO2評価対象項目についての環境配慮概要		実績スコア合計/ 最高点のスコア合計	ライフサイクル CO2評価対象 項目への 貢献点注) (5点満点)
内訳対応項目	各項目について配慮した内容を記述してください。		
<b>建設段階</b>			
Q-2 ■ サービス性能対策			
2 2.2 2.2.1 躯体材料の耐用年数		0.1/0.1	3.0
<b>修繕・更新・解体段階</b>			
LR-2 ■ 資源・マテリアル対策			
2 2.2 既存建築躯体等の継続利用		0.7/1.2	3.0
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用			
<b>運用時のエネルギー</b>			
LR-1 ■ エネルギー対策			
1 建物外皮の熱負荷抑制			
2 自然エネルギーの利用		1.6/5.0	1.6
3 設備システムの高効率化			
4 効率的運用			

注)ライフサイクルCO2評価対象項目に該当する評価項目の得点(重み係数付)を集計し、当該項目の最高点の合計に対する貢献度を示した点数。

スコアシート		実施設計段階				重点項目					環境配慮設計の概要記入欄		評価点		重み係数		全体									
配慮項目		G	W	R	H																					
<b>Q 建築物の環境品質</b>																							<b>2.4</b>			
<b>Q1 室内環境</b>																					0.40				<b>2.6</b>	
<b>1 音環境</b>																			<b>2.6</b>		0.15				<b>2.6</b>	
1.1 室内騒音レベル																			<b>3.0</b>		0.40					
1.2 遮音																			<b>3.0</b>		0.40					
1 開口部遮音性能																			3.0		1.00					
2 界壁遮音性能																			-		-					
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)																			-		-					
4 界床遮音性能(重量衝撃源)																			-		-					
1.3 吸音																			<b>1.0</b>		0.20					
<b>2 温熱環境</b>																			<b>3.0</b>		0.35				<b>3.0</b>	
2.1 室温制御																			<b>3.0</b>		1.00					
1 室温																			-		-					
2 外皮性能																			3.0		1.00		W			
3 ゾーン別制御性																			-		-					
2.2 湿度制御																			-		-					
2.3 空調方式																			-		-					
<b>3 光・視環境</b>																			<b>2.1</b>		0.25				<b>2.1</b>	
3.1 昼光利用																			<b>2.3</b>		0.81					
1 昼光率																			1.0		0.30					
2 方位別開口																			-		-					
3 昼光利用設備																			3.0		0.70		W			
3.2 グレア対策																			<b>1.0</b>		0.19					
1 昼光制御																			1.0		1.00		W			
3.3 照度																			-		-					
3.4 照明制御																			-		-					
<b>4 空気質環境</b>																			<b>2.8</b>		0.25				<b>2.8</b>	
4.1 発生源対策																			<b>3.0</b>		0.50					
1 化学汚染物質																			3.0		1.00					
4.2 換気																			<b>3.5</b>		0.30					
1 換気量																			4.0		0.50		建築基準法を満たす換気量の1.2倍である			
2 自然換気性能																			-		-					
3 取り入れ外気への配慮																			3.0		0.50					
4.3 運用管理																			<b>1.4</b>		0.20					
1 CO <sub>2</sub> の監視																			3.0		0.25					
2 喫煙の制御																			1.0		0.75					
<b>Q2 サービス性能</b>																			-		0.30				<b>2.7</b>	
<b>1 機能性</b>																			<b>2.2</b>		0.40				<b>2.2</b>	
1.1 機能性・使いやすさ																			<b>3.0</b>		0.40					
1 広さ・収納性																			-		-					
2 高度情報通信設備対応																			3.0		1.00					
3 バリアフリー計画																			3.0		1.00					
1.2 心理性・快適性																			<b>1.0</b>		0.30					
1 広さ感・景観																			1.0		0.25					
2 リフレッシュスペース																			1.0		0.75					
3 内装計画																			2.5		0.30					
1.3 維持管理																			<b>3.0</b>		0.50					
1 維持管理に配慮した設計																			2.0		0.50					
2 維持管理用機能の確保																			3.0		0.30					
<b>2 耐用性・信頼性</b>																			<b>3.0</b>		0.30				<b>3.0</b>	
2.1 耐震・免震・制震・制振																			<b>3.0</b>		0.50					
1 耐震性(建物のこわれにくさ)																			3.0		0.80					
2 免震・制震・制振性能																			3.0		0.20					
2.2 部品・部材の耐用年数																			<b>3.2</b>		0.30					
1 躯体材料の耐用年数																			3.0		0.22		R			
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔																			2.0		0.22		R			
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔																			-		-		R			
4 空調換気ダクトの更新必要間隔																			3.0		0.11		R			
5 空調・給排水配管の更新必要間隔																			5.0		0.22		R			
6 主要設備機器の更新必要間隔																			3.0		0.22		R			
2.4 信頼性																			<b>2.8</b>		0.20					
1 空調・換気設備																			3.0		0.20					
2 給排水・衛生設備																			1.0		0.20					
3 電気設備																			3.0		0.20					
4 機械・配管支持方法																			3.0		0.20					
5 通信・情報設備																			4.0		0.20		精密機器の地下空間への設置を回避している			

3	対応性・更新性								3.3	0.30	-	-	3.3
	3.1 空間のゆとり								4.0	0.30	-	-	
	1 階高のゆとり								4.0	0.60	-	-	
	2 空間の形状・自由さ								4.0	0.40	-	-	
	3.2 荷重のゆとり								3.0	0.30	-	-	
	3.3 設備の更新性								3.0	0.40	-	-	
	1 空調配管の更新性								3.0	0.20	-	-	
	2 給排水管の更新性								3.0	0.20	-	-	
	3 電気配線の更新性								3.0	0.10	-	-	
	4 通信配線の更新性								3.0	0.10	-	-	
	5 設備機器の更新性								3.0	0.20	-	-	
	6 バックアップスペースの確保								3.0	0.20	-	-	
	用途・設備の変更が比較的容易である 空間のプランニングの自由度がある。												
Q3	室外環境(敷地内)								-	0.30	-	-	1.7
1	生物環境の保全と創出	G	W		H	-			2.0	0.30	-	-	2.0
2	まちなみ・景観への配慮	G				-			1.0	0.40	-	-	1.0
3	地域性・アメニティへの配慮					-			2.5	0.30	-	-	2.5
	3.1 地域性への配慮、快適性の向上					-			3.0	0.50	-	-	
	3.2 敷地内温熱環境の向上	G	W		H	-			2.0	0.50	-	-	
LR	建築物の環境負荷低減性								-	-	-	-	2.3
LR1	エネルギー								-	0.40	-	-	1.6
1	建物外皮の熱負荷抑制		W		H	-			1.0	0.20	-	-	1.0
2	自然エネルギー利用		W		H	-			3.0	0.10	-	-	3.0
3	設備システムの高効率化		W		H	-			1.0	0.50	-	-	1.0
	集合住宅以外の評価								1.0	1.00	-	-	
	集合住宅の評価								-	-	-	-	
4	効率的運用								3.0	0.20	-	-	3.0
	集合住宅以外の評価								3.0	1.00	-	-	
	4.1 モニタリング		W		H	-			3.0	0.50	-	-	
	4.2 運用管理体制		W		H	-			3.0	0.50	-	-	
	集合住宅の評価								-	-	-	-	
	4.1 モニタリング		W		H	-			-	-	-	-	
	4.2 運用管理体制		W		H	-			-	-	-	-	
LR2	資源・マテリアル								-	0.30	-	-	2.5
1	水資源保護		W		R	-			3.0	0.20	-	-	3.0
	1.1 節水					-			3.0	0.40	-	-	
	1.2 雨水利用・雑排水等の利用					-			3.0	0.60	-	-	
	1 雨水利用システム導入の有無					-			3.0	0.70	-	-	
	2 雑排水等利用システム導入の有無					-			3.0	0.30	-	-	
2	非再生性資源の使用量削減								2.7	0.60	-	-	2.7
	2.1 材料使用量の削減		W		R	-			3.0	0.10	-	-	
	2.2 既存建築躯体等の継続使用		W		R	-			3.0	0.20	-	-	
	2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		W		R	-			3.0	0.20	-	-	
	2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		W		R	-			1.0	0.20	-	-	
	2.5 持続可能な森林から産出された木材		W		R	-			2.0	0.10	-	-	
	2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		W		R	-			4.0	0.20	-	-	
	躯体と仕上材が容易に分別可能な構造である												
3	汚染物質含有材料の使用回避								1.6	0.20	-	-	1.6
	3.1 有害物質を含まない材料の使用					-			3.0	0.30	-	-	
	3.2 フロン・ハロンの回避					-			1.0	0.70	-	-	
	1 消火剤		W			-			-	-	-	-	
	2 発泡剤(断熱材等)		W			-			1.0	1.00	-	-	
	3 冷媒		W			-			-	-	-	-	
LR3	敷地外環境								-	0.30	-	-	3.0
1	地球温暖化への配慮		W			-			3.0	0.33	-	-	3.0
2	地域環境への配慮								2.8	0.33	-	-	2.8
	2.1 大気汚染防止								5.0	0.25	-	-	
	2.2 温熱環境悪化の改善	G	W		H	-			2.0	0.50	-	-	
	2.3 地域インフラへの負荷抑制								2.5	0.25	-	-	
	1 雨水排水負荷低減								3.0	0.25	-	-	
	2 污水処理負荷抑制								3.0	0.25	-	-	
	3 交通負荷抑制								2.0	0.25	-	-	
	4 廃棄物処理負荷抑制								2.0	0.25	-	-	
3	周辺環境への配慮								3.2	0.33	-	-	3.2
	3.1 騒音・振動・悪臭の防止								3.0	0.40	-	-	
	1 騒音								3.0	0.33	-	-	
	2 振動								3.0	0.33	-	-	
	3 悪臭								3.0	0.33	-	-	
	3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制								3.0	0.40	-	-	
	1 風害の抑制								3.0	0.70	-	-	
	2 砂塵の抑制								-	-	-	-	
	3 日照阻害の抑制								3.0	0.30	-	-	
	3.3 光害の抑制								4.4	0.20	-	-	
	1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策								5.0	0.70	-	-	
	2 屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策								3.0	0.30	-	-	
	屋外照明および広告物照明に対し光害の対策をしている												

評価する取組み	合計	合計2	No.1	No.2	No.3	No.4	No.5	No.6	No.7	No.8	No.9	No.10	No.11	No.12	No.13
<b>Q2 サービス性能</b>															
1.2.3 内装計画	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
1.3.1 維持管理に配慮した設計	5.0		-	-	○	-	-	○	○	○	-	○	-	-	-
1.3.2 維持管理用機能の確保	2.0		-	-	-	-	-	-	-	○	-	-	-	○	-
2.4.1 空調・換気設備	1.0		○	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.4.2 給排水・衛生設備	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.4.3 電気設備	1.0	1.0	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.4.5 通信・情報設備	3.0		○	-	○	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-
<b>Q3 室外環境(敷地内)</b>															
1 生物資源の保全と創出	4.0		-	-	-	-	1.0	1.0	1.0	-	1.0	-	-	-	-
2 まちなみ・景観への配慮	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3.1 地域性への配慮、快適性の向上	2.0		-	-	-	-	-	1.0	1.0	-	-	-	-	-	-
3.2 敷地内温熱環境の向上	4.0		-	-	-	-	-	-	-	2.0	2.0	-	-	-	-
<b>LR1 エネルギー</b>															
2 自然エネルギー利用	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<b>LR2 資源・マテリアル</b>															
1.2.2 雑排水等再利用システム導入の有無	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.1 材料使用量の削減	2.0		-	-	2.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	1.0		○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3.1 有害物質を含まない材料の使用	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<b>LR3 敷地外環境</b>															
2.2 温熱環境悪化の改善	1.0		1.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.3.3 交通負荷抑制	1.0		1.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.3.4 廃棄物処理負荷抑制	2.0		-	-	1.0	-	-	-	1.0	-	-	-	-	-	-
3.2.2 砂塵の抑制	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3.3.1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	4.0		2.0	2.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

**主な指標**

**Q1 室内環境**

2.1.3 外皮性能

窓システムSC- 窓の日射熱取得率(η) -	
U値(W/m2K) 窓システム - 屋根 - 外壁 - 床 -	
住戸部分システムU値 - 外皮UA値 - ηAC - ηAH -	

3.1.1 昼光率

昼光率 0.0%

4.2.2 自然換気性能

自然換気有効開口率 0.0%

**Q2 サービス性能**

1.1.1 広さ・収納性

執務スペース .0㎡ /人 病床 .0㎡ /床 シングル .0㎡ ツイン .0㎡

1.1.2 高度情報通信設備対応

コンセント容量 0.0 VA/㎡

1.2.1 広さ感・景観

天井高 0 m

1.2.2 リフレッシュスペース

リフレッシュスペース 0.0% レストスペース 2.0%

2.2.1 躯体材料の耐用年数

想定耐用年数 0 年

2.2.2 外壁仕上げ材の補修必要間隔

想定必要間隔 0 年

2.2.3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔

想定必要間隔 0 年

2.2.6 主要設備機器の更新必要間隔

想定必要間隔 0 年

3.1.1 階高のゆとり

階高 3.8 m

3.1.2 空間の形状・自由さ

壁長さ比率 0.27、病0.28

3.2 荷重のゆとり

床荷重 - N/m2

**Q3 室外環境(敷地内)**

1 生物資源の保全と創出

外構緑化指数 8% 建物緑化指数 0%

3.2 敷地内温熱環境の向上

空地率 0% 水平投影面積率 1% 地表面対策面積率 3% 舗装面積率 31%

**LR1 エネルギー**

1 建物外皮の熱負荷抑制

BPI/BPI<sub>m</sub> 1.03 熱等性能等級 対象外 相当

2 自然エネルギー利用

自然エネルギー直接利 0 MJ/年㎡

採光を満たす教室数	0	採光を満たす住戸数	0
通風を満たす教室数	0	通風を満たす住戸数	0

3 設備システムの高効率化

太陽光 #REF! 太陽熱等 #REF! 蓄電池 #REF!

3a.3t 非住宅部分

BEI/BEI<sub>m</sub> 再エネ 1.00 無 1.00 オフサイト再エネ有 - -

3b.c 集合住宅の評価

一次エネ削減再エネ 無 -

**LR2 資源・マテリアル**

1.2.1 雨水利用システム導入の有無

雨水利用率 0.0%

2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用

特定調達品E - エコマーク商品 - 自治体指定の特定品目等 -

2.5 持続可能な森林から産出された木材

使用比率 0.0%

3.2.1 消火剤

オゾン層破壊係数(C 地球温暖化係数(GWP)

3.2.2 発泡剤(断熱材等)

オゾン層破壊係数(C 地球温暖化係数(GWP)

3.2.3 冷媒

オゾン層破壊係数(C 地球温暖化係数(GWP)

**LR3 敷地外環境**

2.2 温熱環境悪化の改善

見付面積比 108% 棟間隔指標Rw 0.26

地表面対策面積率 4.0% 屋根面対策面積率 0.0% 外壁面対策面積率 0.0%

見付面積Sb 362㎡ 越風向と直交する最大敷地幅Ws 15.351 m 基準高さHb 21.69 m

緑地 8㎡ 水面 ㎡ 保水性対策面 ㎡ 高反射対策面 ㎡ 再帰性反射対策面 ㎡